

飯島合名会社 1872(明治5)年創業

合名会社とは、個人事業主が複数人になり協同事業化した状態を想定した会社形態で、財閥や老舗の蔵元など創業の古い会社によく見られます。今回紹介するのは材木町で古くからお茶を商う「銘茶飯島園」と飯島合名会社。この社名こそ老舗の証、同社の約140年の歴史を物語っています。

座右の銘は「積善余慶」、地道な商いで得た信頼を大切に

今年1月、テレビ番組で日本茶の健康促進効果が紹介され、大きな話題を呼びました。この時、取り上げられたのが「深蒸し茶」。通常の倍の時間を掛けて蒸し上げてから乾燥させる

ため茶葉の見た目は悪くなりませんが、味は濃厚でまろやか。健康成分として注目されるビタミンCやカテキン、テアニンなどの含有量が多く、番組ではダイエツトやお通じにも効果が期待できる長寿食品として報じられました。今や日本茶と言えば深蒸しというほどの人気ですが、この深蒸し茶の味を一般に広め

よう約40年も前から孤軍奮闘してきたのが、材木町に小売店「飯島園」を構える飯島合名会社の四代目当主、飯島恵介氏。

「日本茶は、茶葉の見た目を重視して手もみの技術を競った結果、本来の味を忘れてしまっていました。お茶は見るものではなく飲んで味わうもの。その原点に立ち返らせてくれたのが深蒸し茶です」と見せたのが深蒸し茶は、同社のオリジナルブランド「殺雨」。確かにスツと針のようによれたお茶ではありませんが、渋みが少なく、香りはさわやか。今では全国に300人以上の顧客を持つ人気商品です。「お茶は、日本の文化や歴史に根づいています。地道に商っていけば、必ずその味の良さを伝えられるはず」と語る恵介氏の目には、同社が140年間商つ

てきたお茶への愛情が溢れています。

初代飯島喜多六正義が廃藩置県に伴い帯刀を捨て、金禄公債を資本に製茶と陶器販売を始めたのは明治5年。その後、15歳で家督を継いだ二代目千代蔵が現在の商いの礎を築きました。現在、飯島園が建つ通りから1本南の通りは旧鹿沼街道。東京街道(現・



陶器も商っていた昭和初期、先代が岡山に通り、3年間迷った末に500円もの大金をばたいて手に入れた備前焼の金次郎像

続く高度成長期、市会議員を務めるなど宇都宮の政経界で活躍した三代目守氏に商売を任せられ、販路拡大や小売業進出など事業拡大にあたってきた恵介氏に、代々継がれる家訓を尋ねると、「先代からは『お茶は人を買う商売』と教えられました。人間性が信用できなければ、茶の売買はできません。問屋が信頼するのは産地の人、そして家庭でお茶を飲む方々が信頼

するのは小売店の人柄。お茶は、その店により独自に価格がつけられます。だからこそ人間性を売買するという気持ちが大切である、という教えです。そこから生まれた社訓は「自己の商売に徹する事、至誠第一に一生懸命働く事、お客様に感謝の心を忘れぬ事、好況時に不況を忘れぬ事」。そして恵介氏の座右の銘は「積善余慶」。これらの言葉に共通するのは、嘘のない商売と商品への誇りと愛情。深蒸し茶と同様、時間を掛けて深みが増した言葉に、代々当主が大切にしていた事業発展と継続への思いが凝縮されています。



四代目当主の飯島恵介氏



昭和46年に店舗を建て替え、銘茶飯島園として小売を開始

また、約40年も前から孤軍奮闘してきたのが、材木町に小売店「飯島園」を構える飯島合名会社の四代目当主、飯島恵介氏。

飯島合名会社
 本社
 宇都宮市材木町2番2号
 ☎028-634-5051
 (営業時間) 9:00~18:00/日祝定休

銘茶飯島園
 宇都宮市宮園町5-4
 東武宇都宮百貨店B1
 ☎028-651-5081